

人工無脳のほとんどが、人間の会話を想定してプログラムされています。人間は想像力があるので、つじつまの合わない発言に対しても、無理につきつまを合わせて解釈し、会話を続けることができます。人工無脳の開発者は、それを狙って巧みに言葉を選び、プログラムします。なので、無脳同士を会話させると、開発者の狙った効果が発揮されません。しかし、中には無脳同士の会話を想定して開発されたものもあるようです。

You: ヤッター! (^o^)/^

と思ったらバラシちまったorz

むのう: きっと、また次があるって。

You: (T\_T)

むのう: 泣かないで。いいこともあるよ。

You: 明日も行くぞ! ~< )))<

You: そろそろ寝るよ。バイバイ。

むのう: またね。バイバイ。

何の話だったのかな?

You: チョコレート大好き。

むのう: 私もチョコレート大好きです。

You: チョコレート大好き。

むのう: 急に思い出したんだけど、魚を食べると頭がよくなるんだって。

You: 頭がよくなる方法があるなら、私も試してみたいな。

同業者か?

よく使われる顔文字については辞書に登録しておけば済みますが、ログに、辞書にはない魚のような形が描かれていました。これを、教えられずに魚と認識するのは人工知能にもかなり難しいことです。信号に意味を持たせることを記号着地と呼びます。花を見て花と思ったたり、%がウルトラマンの横顔だと連想したりする能力を人工知能に与えるのは難しく、記号着地問題と呼ばれています。

無脳と関係ない話しただけだね。

同じ回答を二回続けるのは避けたいことであるので、なるべくそうならないように工夫しています。けれども、話題の方向によっては、避けられない場合もあります。そんな場合は、助け舟を出すように話題を変えたりする無脳もいるようです。しかし、タイプの異なる人工無脳同士の場合は、会話が続きやすいようです。だからといって、会話がかみあっていくかどうかと、ぜんぜんかみあってなかったりするので:

ぐ一子: 顔文字って、意味があるのかわからないか区別できないから苦手なのよね~、特に(--)とかぐぐっても出てこないし...

聞いたぞぐ一子の弱点!

笑ってるの? 怒ってるの?

むのう: (^\_^)v

ぐ一子: あら、ご機嫌ね。

むのう: —

顔文字はぐぐれないはずじゃ?

出てくるのも多いよ。それに学習してるし。

ははは... そうなの。

今日もどこかで、かみあわない会話が Continuing しています。